

Happy New Year 2022 年頭に寄せて

新

年あけましておめでとございます。

この原稿を書いている2021年11月は、東京都の新型コロナウイルスの感染者も10〜20人台を推移しています。本会としましては、第6波が来ても対応ができるよう、第5波の反省も踏まえて医療提供体制を再整備しているところです。

新型コロナウイルスのワクチン接種も全体で70%を超え、先進国でもトップクラスの接種率になっている日本の現状を考えると、引き続き、手洗い・マスクなど、きちんと予防対策をとり、3回目のワクチン接種が進行し、経口の重症化予防薬が使えるようになれば、2022年の新型コロナウイルス感染症はだいぶインフルエンザに近い感染症となっていくことでしょう。たとえ感染者がある程度増えてきても、重症者の発生はかなり抑えられるはずで

す。一方、コロナ禍での医療機関への受診抑制の影響から、がん検診をはじめとする検診受診率の減少、それに伴う

2

022年の新春を迎え、謹んで新年のお慶びを申し上げます。

日頃から東京都予防医学協会の皆様には、東京都の福祉保健医療行政にご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、新型コロナウイルス感染症は、発生以来、感染拡大の波を繰り返してきましたが、昨年夏の災害級の感染状況ともいわれた第5波では、想定を上回る規模・スピードで感染が拡大し、保健・医療業務に大きな影響を生じました。都は、ワクチン接種、病床確保

公益社団法人
東京都医師会 会長

尾崎治夫



早期がんの発見の遅れ、進行がんで見つかるケースの増加が危惧されることです。

日本対がん協会と日本癌学会、日本癌治療学会、日本臨床腫瘍学会の3学会が共同で実施した調査では、2020年のがん診断件数は、前年比9.2%減の8万660件で、この結果から推測すると、全国では胃・肺・大腸・子宮・乳の5つのがんで、4万5000人の診断が遅れている可能性があるとのことです。

新型コロナウイルス感染症がかなり落ち着いてくると予測される2022

を進めるとともに、宿泊療養施設や酸素・医療提供ステーションの整備などに積極的に取り組んでまいりました。こうした取り組みに対し、貴協会からのご理解とご協力をいただくとともに、医療従事者の皆様の献身的なご尽力をいただきましたことに、改めて感謝申し上げます。

今後感染拡大が中長期的に反復して起こることに備えて、昨年11月、陽性確認前から回復・療養解除後まで切れ目なく新型コロナウイルス感染症患者に対応可能で、地域住民が安心できる総合的な保健・医療提供体制を整備

年は、東京都予防医学協会と私ども医師会が一丸となって、コロナ禍で減少した健康診断、がん検診の受診者を増やすべくキャンペーンを行っていかねばいけないと考えます。

2025年を皮切りに2040年まで超高齢社会が続いていく日本では、医療や介護にかかる費用のさらなる増大が危惧されることから、これまで以上に予防医療に力を注ぎ、健康寿命の延伸につなげるのが求められます。東京都予防医学協会の果たす役割はますます大きなものになります。

本年もよろしくお願い申し上げます。

するため、「保健・医療提供体制確保計画」を地域の関係者と協議の上、策定したところですが。

一方、コロナ禍は、感染症以外の医療や保健活動に対しても大きな影響を与えてきました。感染症の拡大期にあっても、生活習慣病やがんの予防に重要な役割を果たす特定健診やがん検診の受診率の向上に取り組んでいくことが求められております。都といたしましては、感染防止に努めながら、都民が安心して検診・健診を受診できるよう、引き続き積極的な普及啓発に取り組んでまいります。

今後とも福祉保健局では、誰もが住み慣れた地域で安心して暮らせる東京の実現をめざし、東京都予防医学協会の皆様をはじめとする関係団体や区市町村等と連携を図りながら、福祉・保健・医療サービスの一層の充実に全力を尽くしてまいります。引き続きご理解ご協力を賜りますようお願いいたします。

最後になりましたが、本年が皆様方にとりましてよい一年となりますことを祈念して、私のご挨拶とさせていただきます。



東京都福祉保健局 技監

田中敦子